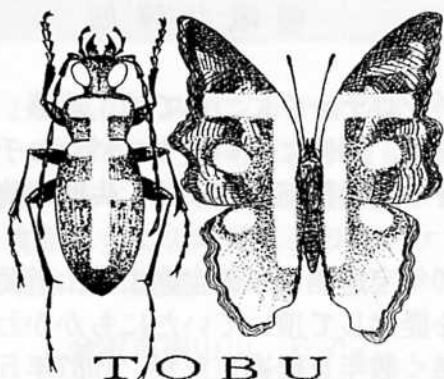




NO. 65

1987年 8月

百万石蝶談会

目 次

嵯峨井淳郎：宝達山のウスバシロチョウ	2
嵯峨井淳郎：金沢市北部地域におけるウスバシロチョウ	3
嵯峨井淳郎：押水町宝達～山崎地内にて見かけた蝶	3
松井正人：石川県のアサギマダラ	4
井村正行：石川県のカミキリムシ科（その7）	10
井村正行：ホソツヤヒゲナガゴバネカミキリを採集	13
金子二久：白山、念仏尾根のベニヒカゲ探索行	14
金子二久：医王山におけるムラサキシタバの記録	14
山本直樹：蛭ヶ野高原のギフチョウ採集法について	14
編集部：会員の動き・しゃばの動き	15
編集部：例会の記録	16

短 報 10			
アサギマダラ			
1987年 6月14日	鶴来町月橋	1 ex	山本直樹
1987年 6月14日	吉野谷村中宮	1 ex	嵯峨井淳郎
1987年 6月14日	金沢市小原	1 ex	井沢國雄
1987年 7月18日	金沢市医王山	1 ex	澤田 博
ウスバシロチョウ			
1987年 5月上旬	金沢市中央公園	1 ex	野村 明
1987年 5月16日	押水町宝達	1 ex	松井正人
1987年 5月16日	金沢市曲子原	2♂2♀♀	松井正人
1987年 5月31日	白峰村下田原川	3 exs	松井正人

宝達山のウスバシロチョウ

嵯峨井 淳郎

能登宝達山(石川県羽咋郡押水町)のウスバシロチョウについては、武藤 明(1963)、砂山 博(1975)により報告されており、同地においてウスバシロチョウは確実に産するにもかかわらず、筆者自身の過去数回の結果は、失敗に終始していた。

しかも、本会会員の高平正明氏より、「1980年宝達側よりの宝達山登山道民家周辺にて得られた(未発表)」という情報を提供して頂いていたにもかかわらず、その後、同地域における調査の機会が無く数年を経過したが、1987年5月9日、同地域を訪れるチャンスに恵まれ、再度挑戦してみた結果、ようやくウスバシロチョウの生息を確認することができた。

なお、調査コースは羽咋郡押水町~河北郡高松町~河北郡津幡町へと南下するコースをとった。調査地域、食草の有無、成虫確認の有無、環境は以下のとおり。

調 査 地	成虫確認	食 草	環 境	
押水町	上 田	4♂♂	有(ムラサキケマン)	宝達川沿いの明るい河原
	山 崎	2♂♂	〃 (〃)	宝達川沿いの民家の庭
	宝 達	—	〃 (〃)	*
	上 野	—	〃 (〃)	*
	東 野	—	〃 (〃)	
高松町	野 寺	—	〃 (〃)	
	黒 川	—	〃 (〃)	
津幡町	上太田	—	有(ムラサキケマン)	
	菩提寺	—	未確認	
	興 津	—	未確認	
	下河合	—	有(ムラサキケマン)	*
	上河合	—	〃 (〃)	*
	瓜 生	—	〃 (〃)	*
	牛 首	—	未確認	

* 印は、更に精査を要する地域。生息の可能性大。

金沢市周辺における本種の生息環境は、一般的に民家周辺の花、特にネギ花上に群がるのをよく目にするが、押水町での観察ではネギの花には、ほとんど興味を示さないようであった。

参考文献

- 1 武藤 明(1963) 能登半島のトンボとチョウ(2) 生物研究 7(1/2)19~23
- 2 砂山 博(1975) 羽咋地方の蝶目録 とっくりばち NO.30.31 1~3
- 3 嵯峨井淳郎(1980) 石川県産ウスバシロチョウの記録 翔 NO.13 4~7

金沢市北部地域におけるウスバシロチョウ

嵯峨井 淳郎

石川県のウスバシロチョウは、金沢市以南の山地帯と、隔離された地域として、輪島市、門前町、押水町にて確認されているが、本年になって金沢市北部地域、森本川支流桐山川沿いに、本種を採集確認したので報告する。

食草は全ての地域にムラサキケマンを確認済みで、記録は1987年5月16日嵯峨井淳郎採集である。

金沢市桐山川 6♂♂
金沢市中尾 1♂
金沢市上平 2♂♂
津幡町材木橋 1♂

金沢市松根 1♀
金沢市滝下 2♂♂
金沢市琴坂 1♀

金沢市北部地域におけるウスバシロチョウの記録は、「野中が金沢市荒山にて目撃した記録(1980)」しか見当たらないが、採集確認地域は、筆者らによりウラミアカシジミやオオヒカゲの調査のために過去何度となく訪れた所であり、今回もオオヒカゲ幼虫採集を目的に訪れたものである。今までにどうして発見できなかったのか、不思議な現象である。

あくまで想像で、何のウラもとれない話ではあるが、以前より産していたにもかかわらず、当時と現時点での目の向け方の違い、目的物の相違のために発見に至らなかったのであろうか。

発見地における環境の変化も著しく、河川改修工事、国道昇格による道路の拡幅工事、その他田畑の区画整理等により河川敷の植生に変化が生じ、他の地域より食草ムラサキケマン等の種子混入の土砂が運ばれ、以前雑草雑木に覆われていた地域に突然好環境が発生。そこへ既産地より飛来したウスバシロチョウが定着化した。というロマンはいかがなものであろうか。

いずれにしろ10～20年程前迄採集できなかった地域において、本年2桁のウスバシロチョウが採集確認できたことは幸運であった。

参考文献

嵯峨井淳郎(1980) 石川県産ウスバシロチョウの記録 翔 NO.13 4-7

押水町宝達～山崎地内にて見かけた蝶

嵯峨井 淳郎

1987年5月9日押水町宝達～山崎地内にて見かけた蝶は、次の13種であった。

ウスバシロチョウ、アゲハ、キアゲハ、カラスアゲハ、クロアゲハ、
モンキチョウ、スジグロシロチョウ、アカタテハ、ルリタテハ、キタテハ、
トラフシジミ、ベニシジミ、ルリシジミ

石川県のアサギマダラ

松井 正 人

石川県にはアサギマダラの幼虫越冬に必要な常緑のガガイモ科植物が無く、県内での越冬は考えられない。しかし落葉性のガガイモ科植物、例えばガガイモ、イケマ、コバノカモメヅル、オオカモメヅルを確認していることから、県内での発生は考えられる。そこで県内で見られるものは、春季に飛来したものが、その年に何回か発生することが予想されるが、県内には成虫の記録しかなく、はたして発生しているのか、発生するとすれば何化か、時期は、と言った事はまるで分かっていない。そこで成虫の記録から現時点における石川県のアサギマダラを把握し、周年経過を推定する事を考えた。

今回用いた記録の収集に関しては、金子二久、嵯峨井淳郎、澤田 博、田辺幸雄、中西重雄、橋場 清、松田俊郎、吉村久貴の各氏に大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

1. 成虫の記録

拾い漏れも多いと思われるが、収集したもの総て(月日不明なものは除いた)を月日順に並べた。() でくくったmはおおよその標高を示し、*は参考文献を示す。

河内村板尾不動滝(300m)	1♂	1980年 5月19日	吉村久貴	*13
吉野谷村蛇谷(700m)	1ex	1985年 5月26日	吉村久貴	
河内村口直海(200m)	1ex	1985年 5月26日	吉村久貴	
金沢市犀川ダム(400m)	3♂♂	1977年 5月29日	松井正人	
金沢市湯涌荒屋(300m)	1ex	1982年 6月 4日	松井正人	
吉野谷村蛇谷(700m)	1ex	1983年 6月 5日	松井正人	
金沢市医王山(700m)	1♂	1982年 6月13日	中西重雄	
吉野谷村雄谷(700m)	1♂1ex	1984年 6月14日	松井正人	
金沢市医王山(700m)	1♂	1982年 6月19日	岩下泰子	
金沢市卯辰山菖蒲園(100m)	1ex	1983年 6月19日	澤田 博	
吉野谷村蛇谷(700m)	1ex	1982年 6月20日	松井正人	
金沢市医王山(700m)	1ex	1985年 6月下旬	田辺幸雄	
金沢市医王山(700m)	3exs	1982年 6月下旬	岩下泰子	
金沢市医王山(700m)	1♂	1981年 7月11日	嵯峨井淳郎	
金沢市医王山(700m)	1♀	1980年 7月13日	嵯峨井淳郎	
金沢市医王山(700m)	1ex	1980年 7月14日	橋場 清	
尾口村新岩間温泉(800m)	1♂	1983年 7月19日	中西重雄	
白峰村白山甚之助ヒュッテ(2000m)		1980年 7月22日	中山佐一郎	*4
尾口村丸石谷(1200m)	1ex	1983年 7月24日	松井正人	
金沢市住吉(300m)	1♂	1982年 7月25日	中西重雄	

白峰村白山別当出合(1200m)	1ex	1980年 7月26日	竹谷宏二	*2
白峰村白山南竜馬場(2100m)	1ex	1986年 7月29日	吉村久貴	
白峰村白山別当出合(1200m)	2exs	1986年 7月29日	吉村久貴	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	1♂	1982年 7月31日	吉村久貴	*15
白峰村白山釈迦林道(1400m)	11♂♂1♀	1980年 8月 2日	吉村久貴	*14
白峰村白山甚之助ヒュッテ(2000m)	3♂♂	1965年 8月 2日	橋場 清	
鹿島町石動山(400m)		8月 3日	和田木征範	*20
白峰村白山釈迦林道(1400m)	50♂♂9♀♀	1980年 8月 6日	吉村久貴	*14
白峰村白山釈迦林道(1400m)	5~6exs	1982年 8月 7日	吉岡 泉	*15
白峰村白山釈迦林道(1400m)	1ex	1983年 8月 8日	松井正人	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	18♂♂	1983年 8月 8日	吉岡 泉	*16
白峰村白山釈迦林道(1400m)	41♂♂10♀♀	1980年 8月10日	吉村久貴	*14
白峰村白山釈迦岳頂上(2000m)	2♂♂	1981年 8月11日	嵯峨井淳郎	
白峰村白山甚之助ヒュッテ(2000m)	2exs	1970年 8月12日	松井正人	
尾口村岩間ヒュッテ(1100m)	多数	1977年 8月14日	金子二久	
白峰村白山南竜馬場(2100m)	1ex	1984年 8月14日	吉村久貴	
押水町宝達山山頂(600m)	1♂2♀♀	1963年 8月14日	嵯峨井淳郎	*1
白峰村白山別当出合(1200m)	1ex	1984年 8月14日	吉村久貴	*19
尾口村丸石谷(1200m)	3♂♂	1977年 8月16日	井村正行	
尾口村丸石谷(1200m)	1♂	1986年 8月17日	吉村久貴	
尾口村白山清浄ヶ原(2400m)	1ex	1986年 8月17日	松井正人	
白峰村白山七倉(2500m)	1♀	1986年 8月18日	松井正人	
白峰村白山甚之助ヒュッテ(2000m)	1♂1♀	1962年 8月18日	橋場 清	
尾口村丸石谷(1200m)	2exs	1984年 8月20日	吉村久貴	*18
白峰村白山釈迦林道(1400m)	1♂	1981年 8月21日	橋場 清	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	1♂	1977年 8月22日	橋場 清	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	6exs	1982年 8月22日	松井正人	
尾口村丸石谷(1200m)	2♂♂	1977年 8月22日	村上憲一	
尾口村丸石谷(1200m)	2exs	1980年 8月24日	松井正人	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	2♂♂	1981年 8月24日	橋場 清	
尾口村中の川(900m)	4exs	1980年 8月24日	松井正人	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	2♂♂	1980年 8月25日	吉村久貴	*14
尾口村丸石谷(1200m)	1♂	1984年 8月26日	中西重雄	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	4♂♂	1978年 8月27日	吉村久貴	*14
尾口村丸石谷(1200m)	2♂♂	1978年 8月27日	松井正人	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	2♂♂2♀♀	1978年 8月28日	橋場 清	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	2♂♂2♀♀	1978年 8月28日	嵯峨井淳郎	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	2♂♂	1979年 8月29日	吉村久貴	*14

白峰村白山釈迦林道(1400m)	2♂♂	1979年 8月29日	吉村久貴	*12
白峰村白山釈迦林道(1400m)	多数	1985年 8月29日	松田俊郎	*5
尾口村丸石谷(1200m)	2♂♂	1986年 8月31日	松井正人	
尾口村丸石谷(1200m)	5♂♂	1986年 8月31日	吉村久貴	
富来町巖門(0m)	1ex	1982年 9月 5日	吉村久貴	
白峰村白山観光新道(1800m)	1ex	1982年 9月 5日	松井正人	
尾口村丸石谷(1200m)	2exs	1986年 9月 7日	吉村久貴	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	1♂1ex	1986年 9月 7日	松井正人	
尾口村白山楽々新道(1400m)	1ex	1985年 9月 8日	松井正人	
白峰村白山釈迦林道(1400m)	1♂1♀	1979年 9月10日	橋場 清	
押水町宝達山山頂(600m)	14♂♂3♀♀	1986年 9月21日	松井正人	*8
小松市大杉(200m)		1963年 9月22日		*9
小松市蓮代寺(0m)		1980年 9月23日	中山佐一郎	*3
河内村奥池(500m)	1♂	1982年 9月26日	中西重雄	
鶴来町獅子吼高原(600m)		1963年10月 4日	岩田 健	*10
小松市仏大寺(200m)	1♂	1963年10月 6日	菅沼正一	*10
金沢市宝町(0m)	1ex	1984年10月10日	吉村久貴	*17
金沢市石引(0m)	1ex	1986年11月 3日	澤田 博	*6
七尾市祖浜(0m)	1ex	1971年11月14日	山本順子	*11
小松市上八里(0m)	1ex	1977年11月25日	松井正人	*7

3. 記録の解析

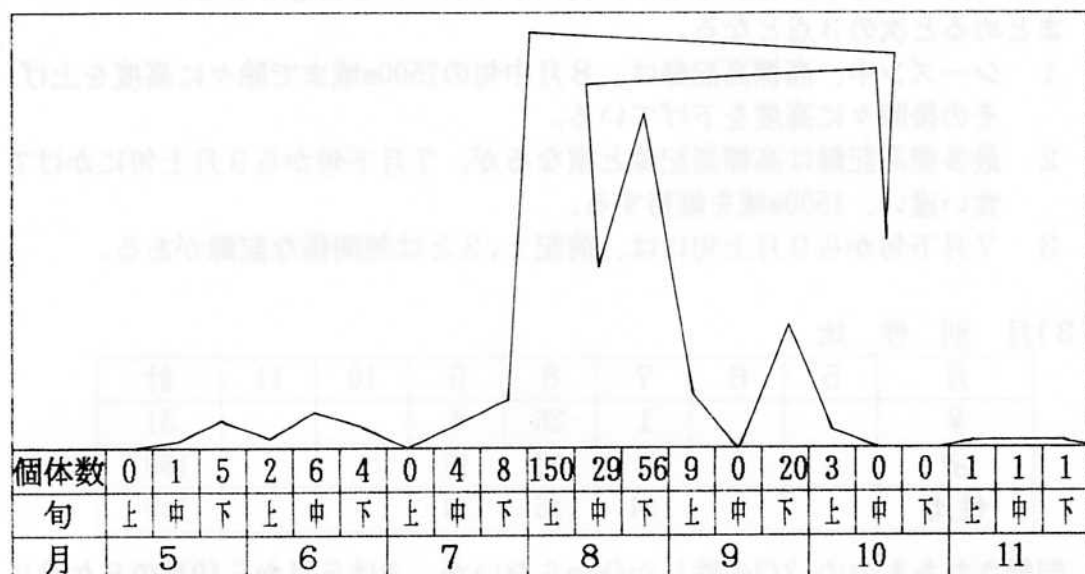
記録は1962年から1986年までの78例、約300頭で、ほとんどは最近10年間のものである。この中には個体数の不明なものも含まれる為、解析上不明は1ex、多数は10exsとして処理した。

(1) 旬別個体数

成虫は5月中旬より現れ、6月上中旬にピークをもつ波があるように思われる。

7月上旬には記録が無く、中下旬と次第に増え、8月上旬に激増した後、中旬には激減する。ところが8月上旬の記録には 50♂♂9♀♀と言った他に類を見ない記録が並んでいる。これらが多数と報告されていたなら、8月上旬の記録は50頭となり、飛び抜けた増加にはならない。8月下旬に再び増えたものの9月上旬に大きく減り、中旬には記録が消える。9月下旬の個体数は多いが、宝達山山頂の17頭は移動個体群と考えられ、同レベルでは扱いにくく、これを除くと3頭となる。こう見てくると7月中旬から10月上旬にかけては増減があるものの、8月中旬付近をピークとした大きな波があるように考えられる。

10月中下旬と記録が無く、11月にはわずかながら記録が続く。どうも11月中旬をピークとした波があるように思われる。



まとめると、次の5点となる。

- 1 シーズン中、6月上中旬、8月中旬、11月中旬をピークとした3つの波がある。
- 2 第1の波は低く幅が広い。
- 3 第2の波は大きく激増、激減し、尾を引く。
- 4 第3の波は大変小さい。
- 5 10月中下旬に記録の空白がある。

(2) 旬別標高別個体数

~2500									3													
~2000								2	3	6		1										
~1500								5	146	17	52	7										
~1000		1		1	5	4		4		3	4			17	1							
~500		1	4	1	1			1	1			1	3	2				1	1	1		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
月	5			6			7			8			9			10			11			

5月中旬500m域(0~500m)で見られてから7月上旬に記録が無いものの、7月中旬にかけて記録はゆっくり高地(1000m域)へ移動していると思われる。

7月下旬から9月上旬にかけては色々な標高域に見られるが、高標高記録は2000m域から8月中旬に2500m域へ移動し、その後8月下旬に1500m域、9月上旬に2000m域となる。どうも高標高記録は5月中旬から7月中旬の上昇に引き続き、8月中旬まで上昇し、その後下降していると思われる。またこの時最も多く見られる最多標高記録は1500m域を維持している。

9月下旬から11月下旬にかけ10月中下旬に記録が無いものの、記録は8月中

旬から9月上旬の下降を受け継ぎ、更に下降していると思われる。

まとめると次の3点となる。

- 1 シーズン中、高標高記録は、8月中旬の2500m域まで除々に高度を上げ、その後除々に高度を下けている。
- 2 最多標高記録は高標高記録と重なるが、7月下旬から9月上旬にかけて食い違い、1500m域を維持する。
- 3 7月下旬から9月上旬には、前記1,2とは無関係な記録がある。

(3)月 別 性 比

月	5	6	7	8	9	10	11	計
♀			1	26	4			31
♂	4	3	4	160	17	1		189
性比			1:4	1:6	1:4			1:6

記録されたものの2/3の性しか分からないが、♂は5月から10月の6ヶ月に記録され、♀は7、8、9月の3ヶ月しか記録されていない。♀はシーズンを通して少なく、性比は189:31とだいたい♂6頭に対し♀1頭となっている。(♀が少ないことから、♀が選択的に記録されていると思われる。事実私も♂は採集せず、♀だけを採った経験がある。このことから性比はもっと大きいと思われる。)

(4)記 録 地 点

記録地点のほとんどは加賀地方で、中でも白山地域に集中している。これは白山地域以外に、1500m域以上の観察地点が無いからだろう。

能登地方、特に奥能登の記録が本稿には無いが、記録が無い訳では無く、正確なものが拾えなかっただけである。これは、近年能登地方の調査活動が少ない為と言う事もできる。

4. 周年経過の推定

シーズン中、アサギマダラは3回見られるようである。

第1回は越冬が考えられないことから、飛来個体群と考えられる。波が低く幅広いことから、集団で飛来するのではなく、個々に飛来すると考えられる。これらの個体は低地へ飛来し奥地(高地)へ移動すると思われる。

第2回を飛来群と見るか、当地で発生したと見るかであるが、急激で多数の増加が見られることから、これを集団飛来と考えるより、当地で発生し激増したと考えた方が良いと思われる。激増したもののほとんどは1500m域で見られることから、このころの1500m域は本種にとっての最適温度域と思われる。もし飛来個体が500m、1000m域で産卵し、それらが羽化し1500m域を目指したとすれば、500m、1000m域でも見られ、1500m域で最も多く見られる事になるのではないだ

ろうか。また一部は更に移動を続け高地へ昇るのではないだろうか。激減は低温に因る移動(南下)と思われ、集団で移動する事から、移動群に遭遇すれば、9月下旬の宝達山の様に多数記録となり、そうでなければ、上中旬の様に記録が少なくなるのではないだろうか。もし、上中旬にも移動群と遭遇していれば、この波は激増し、除々に減少すると言えるだろう。

第3回はわずかな個体が1ヶ月見られ、南下の飛来群、あるいは地元の2化と考えることができる。しかし10月中下旬に記録の空白期があり、南下個体はそれ以前に移動していると考えられ、飛来は考えにくく、地元2化と考えることができる。一化の割に個体数が極端に少ないのは、成育初期の高温、後期の低温と言った温度環境の悪さにあるのではないだろうか。例えば9月上旬まで最も多く見られる1500m域に産卵されたものは、後期の低温が障害となり、低地においては初期の高温が災いすると思われる。

以上成虫データーだけから色々と推定してみたが、何ゆえにも不勉強の一時仕事なので、間違いも多々あると思われる。ぜひ皆さんのご叱正をお願いしたい。また本稿に関係するデーターや知見をお持ちの方は、ぜひご教示願いたい。

参考文献

- *1 嵯峨井淳郎(1979) 翔 4 p.2
- *2 竹谷 宏二(1980) とっくりばち 45 p.1
- *3 中山佐一郎(1981) 小松市立博物館研究紀要18 p.15
- *4 中山佐一郎(1981) 白山地域自然環境調査報告書 p.49
- *5 百万石蝶談会(1985) 翔 53 p.10
- *6 百万石蝶談会(1986) 翔 60 p.11
- *7 松井 正人(1978) とっくりばち 41 p.2
- *8 松井 正人(1986) 翔 60 p.9
- *9 矢田 新平(1963) 小松・加賀・江沼の蝶 p.5
- *10 矢田 新平(1964) 小松・加賀・江沼の蝶 VOL II p.4
- *11 山本 順子(1972) とっくりばち 21 p.1
- *12 吉村 久貴(1979) 翔 7 p.2
- *13 吉村 久貴(1980) 翔 16 p.2
- *14 吉村 久貴(1981) 翔 21 p.2
- *15 吉村 久貴(1983) 翔 38 p.3
- *16 吉村 久貴(1984) 翔 44 p.6
- *17 吉村 久貴(1984) 翔 47 p.7
- *18 吉村 久貴(1985) 翔 50 p.22
- *19 吉村 久貴(1985) 翔 51 p.4
- *20 和田木征範(1957) とっくりばち 2 p.17

石川県のカミキリムシ科 (その7)

井村正行

125. キスジトラカミキリ Cyrtoclytus caproides BATES

低山帯からブナ帯上部まで広く分布し、各種広葉樹の伐採木や各種の花から採集されている。6月から8月まで採集され、個体数も少なくない。

1975年6月2日 1♂1♀

金沢市鈴見山

井村正行

1979年6月24日 1♂1♀

白山釈迦林道

井村正行

126. エグリトラカミキリ Chlorophorus japonicus CHEVROLAT

平地からブナ帯上部まで広く分布し、各種広葉樹の伐採木や各種の花より採集されている。5月から8月まで採集され、個体数も大変多い。本県で確認出来たホストは、アベマキ、コナラ、ミズナラ、クリ、スダジイ、ハンノキ、ケヤキ、サクラ等で、食樹の範囲は大変広がった。越冬態は、終齢幼虫または前蛹。

1979年6月19日 1♂

金沢市倉ヶ岳

井村正行

1981年6月7日 1♀

白山釈迦林道

井村正行

127. クロトラカミキリ Chlorophorus diadema MOTSUHULSKY

低山からブナ帯まで分布し、各種広葉樹の伐採木から採集されているが、発生は前種より遅く7月から8月に採集されている。個体数も少ない。

1978年7月18日 1♂

金沢市平栗

井村正行

1979年8月19日 1♀

白山三ツ谷

野中 勝

128. タケトラカミキリ Chlorophorus annularis FABRICIUS

平地から低山に分布。竹林や笹類の群生が見られるそばで、飛翔中の個体や、偶然止まっていたものなどが採集されている。それらの近くでは、人家に飛び込んでくる個体も良く見みかける。7月から8月に発生する。

1974年8月12日 1♀

金沢市藤六

井村正行

1986年8月2日 1♂

金沢市湊

井村正行

129. トウキョウトラカミキリ Chlorophorus yedoensis KANO

本県では白山大杉谷林道で5月から6月に採集されているに過ぎない。各種広葉樹の伐採木に集まり、特にブナ科を好むように思われる。同地より春に葉をつけたまま折れていたクリの材を、秋に持ち帰ったところ、翌々年の春4月上旬に羽脱したことがある。直径15cm前後の材だった。このことより本種は成虫までに2年を要し、1年目の越冬態は幼虫で、2年目は材内新成虫で過ごすものと思われる。本県で確認できたホストはクリ。

1979年6月10日 1♀

白山大杉谷林道

井村正行

1981年4月5-8日 2♂2♀(羽脱)

白山大杉谷林道

井村正行

130. フタオビミドリトラカミキリ *Chlorophorus muscosus* BATES

平地に分布し、特に海に面した地域に多い。アカメガシワの花やカシワの立枯木から採集されている。加賀市吉崎で材採集したカシ類より羽脱したこともある。6月から8月に発生。

1974年8月6日	1ex	珠洲市牛岩	松枝 章
1979年6月22~23日	3♂3♀(羽化)	加賀市吉崎	井村正行

131. ホソトラカミキリ *Rhaphuma xenisca* BATES

低山帯からブナ帯まで分布し、各種の花より採集される。発生は5月から8月までで、個体数はやや少ない。

1974年5月16日	1♂	金沢市湯涌	井村正行
------------	----	-------	------

132. ヒメクロトラカミキリ *Rhaphuma diminuta* BATES

平地からブナ帯まで広く分布し、5月から7月まで各種の花や広葉樹の伐採木から採集されている。ブナ科、サクラ類、ハンノキ類等の材より羽脱させている。越冬態は新成虫で、個体数は大変多い。

1979年4月7日	多数(新成虫)	金沢市鈴見山	井村正行
1979年5月20日	1♀	白山釈迦林道	井村正行

133. トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transillius* BATES

平地からブナ帯まで広く分布し、5月から7月に各種の花より採集される。スギの立枯や、イヌガヤの衰弱木から羽脱させている。個体数は大変多く、越冬態は新成虫か幼虫。

1979年5月6日	2♂1♀	金沢市倉ヶ岳	井村正行
1985年6月2日	1♀	白山釈迦林道	井村正行

134. キイロトラカミキリ *Demonax notabilis* PASCOE

平地から低山帯に分布する。6月から7月に広葉樹の伐採木に集まり、個体数はそれほど多くないようだ。入場 登氏は加賀市吉崎で採集した材より、羽脱させている。

1979年5月25日	1♂(羽脱)	加賀市吉崎	入場 登
------------	--------	-------	------

135. カンボウホソトラカミキリ *Hayashiclytus acutivittis* KRAATZ

いままで白山のブナ帯だけで採集されている。6月から7月に、ミズキ、ゴトウズル等の花や、新しいブナの倒木等にいたものが採集されている。またそれら倒木では、産卵行動も見られた。個体数はやや少ない。

1979年6月24日	2♂	白山釈迦林道	井村正行
1981年6月22日	1♀	白山釈迦林道	井村正行

136. シロトラカミキリ Paraclytus excultus BATES

低山帯からブナ帯上部まで広く分布し、5月から7月に各種の花から採集される。ブナの倒木や立枯木等にも飛来し、産卵行動も見られる。個体数は多い。

1979年6月10日	1♂1♀	白山釈迦林道	井村正行
1980年5月11日	1♂	金沢市犀川ダム	井村正行

137. スギノアカネトラカミキリ Anaglyptus subfasciatus PIC

平地から低山帯に分布する。各地のスギ植林地で発生しているようで、4月から6月にかけてスギ林近くのクリの花や、側溝に落ちているもの等が採集されている。個体数は少ない。

1979年5月28日	1♂1♀	金沢市倉ヶ岳	井村正行
------------	------	--------	------

138. トガリバアカネトラカミキリ Anaglyptus niponensis BATES

平地から低山帯に分布し、5月から6月花に来たものが採集されている。輪島市曾々木では枯材より本種の新成虫を割り出しているが、樹種は不明。越冬態は新成虫のようだ。

1979年4月11日	2♂4♀	輪島市曾々木	井村正行
------------	------	--------	------

139. マツシタトラカミキリ Anaglyptus matsushitai HAYASHI

低山帯からブナ帯まで分布し、クリの生木の幹を這っているものや、ミズキ、サワフタギ、クリ等の花に集まっているものが採集されている。個体数も多く、花には特に夕方好んで集まるように思える。5月下旬から6月に採集され、クリの生木では大木が良く、それらの樹皮には多くの脱出口と思われる穴が多く開いている。

1979年6月17日	2♂	白山釈迦林道	井村正行
1980年6月5日	2♂1♀	金沢市倉ヶ岳	井村正行

140. エゾトラカミキリ Cytophorus rosti PIC

分布は局所的で今まで採集されている場所は、白山釈迦林道だけのようだ。カエデ、ミズキ、ゴトウズル、サワフタギ等の花より採集され、同地での個体数は多い。発生は、5月下旬から7月上旬まで。

1980年5月25日	3♂	白山釈迦林道	井村正行
1981年7月1日	1♀	白山釈迦林道	井村正行

141. ホタルカミキリ Dere thoracica WHITE

平地から低山帯に分布し、ネムの木の伐採木やクマノミズキの花等で、4月から6月に採集される。冬期ネムの枯木より新成虫が採集されている。越冬態は新成虫。

1979年3月25日	1♂1♀ (新成虫)	輪島市曾々木	井村正行
1985年4月12日	1♂1♀	金沢市俵	井村正行

142.ムモンベニカミキリ Amarysius sanguinipennis BLESSIG

鶴来町と白山大杉谷から採集されているが、鶴来町の記録の詳細は不明。

大杉谷での野外成虫はまだ得られていないが、クリの新しい枯枝より冬期終齢幼虫が採集され、羽化に至っている。終齢幼虫はいずれも1cm弱の細い枯枝につき、その先端部を切り落とし、それより15mm程戻って木屑を詰め、その奥に蛹室を作っている。脱出口は蛹室の壁材に開けられる。

1980年5月20日	1♀(羽脱)	白山大杉谷	井村正行
1980年6月20日	1♂(羽脱)	白山大杉谷	井村正行

143.ヘリグロベニカミキリ Purpuricen spectabilis MOTSCHULSKY

低山帯からブナ帯まで分布し、飛翔中のものや各種の花から採集されている。5月から6月に発生し、個体数はやや少ない。

1979年5月4日	1♀	河内村下金間	松井正人
1980年6月24日	1♀	白山釈迦林道	井村正行

144.ベニカミキリ Purpuricen temminckii GUERIN-MENEVILLE

平地から低山帯に分布し、4月から6月に伐採された竹の上を飛翔しているものや、各種の花に來ているものが採集されている。個体数も大変多い。また衰弱したモウソウチクより冬期新成虫が得られている。

1983年5月5日	1♀	金沢市倉ヶ岳	井村正行
1986年6月2日	多数	金沢市別所	井村正行

ホソツヤヒゲナガゴバネカミキリを採集

井 村 正 行

ホソツヤヒゲナガゴバネカミキリ Molorchus nitidus OBICA は石川県に分布が予想されていたが、これまで記録は無かった。筆者は金沢市小原地内内川ダム近くにおいて、エノキの枯枝について新成虫を採集したので報告する。

採集場所は、内川ダム手前の車道より川側の斜面にある杉林の中や、その周辺である。枯枝は10mmから15mm位の太さで、比較的暗い場所に生えた十数本のエノキの比較的小木の2本のエノキから採集し、持ち帰ってから3日位の間に総て羽脱してしまった。

筆者の知見では、本種はエゾエノキのみにつくと思われるが、筆者がそれらのエノキを見たところ、普通のエノキのように思われた。この件については、改めて専門家に確認のうえ、もう一度報告するつもりである。

データー 石川県金沢市小原 1987年4月25日材採集 井村正行
1987年4月25日～28日 9♂♂12♀♀ 羽脱

白山、念仏尾根のベニヒカゲ探索行

金子 二 久

一昨年の秋の例会で、松田氏より野谷荘司山(1797m)の近くでベニヒカゲを見た聞いた。次の年、つまり去年(1986年:一昨年の来年は今年の去年)8月10日は妙法山まで、二回目(1986年8月24日)はモウセン平まで歩いた。天気は薄曇りと晴れだったが見つからなかった。帰路、三方岩の避難小屋の様子を見に行ったら、土台とバケツしか残っていなかった。今年は白山スーパー林道の回数券を購入しようか考えている。

医王山におけるムラサキシタバの記録

金子 二 久

昨年(1986年10月4日)、金沢市医王山スポーツセンターの燈火でムラサキシタバ(♂)1頭を採集した。同地に於いては野中氏の記録がある(スポーツセンターキャンプ場、1980年8月5日)。各データーより見ると当地では長期間採集が楽しめそうである。

蛭ヶ野高原のギフチョウ採集法について

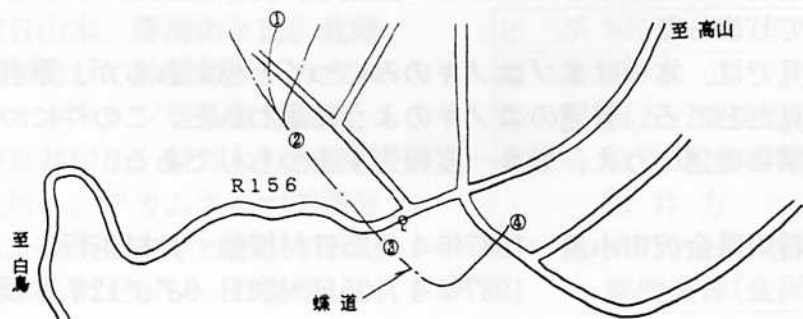
山 本 直 樹

岐阜県高鷲村の蛭ヶ野高原ではポイントが少なく、よく歩くことが採集条件です。

Bestな方法の1つの案として、1987年5月17日の成功の秘訣を述べますと(成果は2人で18♂♂2♀♀)。

7:30~9:30 ①のブッシュをとにかく歩き回る。(5月15日~末なら、絶えず新鮮なものが発生するようです)

9:30~15:00 ②~④を歩き回ると、杉林の中をヒラヒラ飛んでいる。(①~④に蝶道があるらしい。④も①と同じブッシュの発生地です。①と④へ1時間おきに入るのもよろしいでしょう。③のポイントは高原口バス停の所で、ちょっとした公園になっています。②③の杉林の日溜まりに集まりますが、♂しか来ないので、♀は①か④が良いでしょう)



会員の動き・しゃばの動き

5月1日ドク金平、県立中央病院から敦賀ナントカ病院へ。再び金大付属病院へ戻るかは不明。

5月19日吉村氏、白馬のイエローポイントに出来た堰堤や、岩岳のアサマポイントを走り回るブルを見て愕然とする。

5月28日ヒロコこと松井夫人、入院生活も早一ヵ月、窓からはエノキの大木が見え、日増しに多くなるゴマダラチョウに季節の移り変りを感じていた。

5月31日山本氏、大多和峠へ。ギフ、ギンイチ、ウスバシロ等多数採集。この日は採集者が数組出入りしたらしい。

6月4日8時より寺町実成寺にて虫供養。住職は子供の集りと思っていらしく、どれだけ待っても大人だけなので、とんと始まらなかった。

6月7日山本氏、穂高、野尻湖方面でオオルリ捜し。ところが採れたのはヒメ、ミヤマ、ギンイチばかり。

同日松田氏、毎度お馴染のビデオスタイルで辰口に現れた。ところがウラナミどころか蝶影は全く無く、カメラを抱えた竹谷氏を写して帰って行った。

6月12日嵯峨井邸に大量の珍品が持ち込まれたが留まらず、あちらこちらへと流れていった。嵯峨井氏いわく、「体に悪い、目の毒だ。」尚、仕掛け人は井沢國雄氏。

6月13日嵯峨井邸にて井沢氏を励ます会。とは言っても松井氏を含めた3人で、ただ酒を飲んだだけ。

6月13日吉村氏、1ペア10万円もするビクトリアトリパネをいとも簡単に買い込んだ。なんでも結婚前に仕込まないと、仕込められなくなると言っていた。

6月14日嵯峨井、井沢、松井、山本の4氏、午前中は小原のオオミスジ、午後は中宮のツマジロウラジャと忙しく飛び回った。なんでも寝ている3氏を山本氏が引っ張りだし、尻を叩いたらしい。

6月21日藤田病院からジャコウアゲハが飛び立った。ヒロコこと松井夫人が飼っていたものだが、彼女の退院より一足早かった。

6月22日澤田氏、朝駆けして医王山へ。今年中に医王山産ゼフ全種を揃えたと張りきっている。現在6種。

6月23日井村氏、ソボリングを狙って国見山へ。狙いは外れたものの、ヌバタマハナ1♂を採集。白山以外では採れていない代物。

6月25日医王山ゼフポイントは段々と賑やかになってきた。毎日澤田氏がやって来るかと思ったら、山本氏も仲間入り。朝早くからご苦労さんなことです。

田中先生、最近はおっぱらヒラタクワガタに熱を上げている。5月末から毎日の様に近くの神社を回り、条件の良い日は梯子を担いで、一晩に3回も見回りするらしい。

最近再び、福井虫の会再興の噂が飛び交っている。どうも県外流出虫屋の出戻り現象が引き金になっているらしい。

6月28日山本氏、キマルリを求めて八日市へ。朝より叩いて回ったが、日も暮れかかる頃にやっと1ex飛びだしたらしい。連日10人以上の虫屋が出入りするとか言っていた。

同日医王山は久々の大賑わい。もちろんゼフを狙っての面々だが、ビデオの松田氏、カメラの竹谷氏、長竿の嵯峨井氏、見るだけ(?)の澤田氏と、最近は色々と凝っている。

7月1日澤田氏、医王山でフジ、ウラクロ、アイノを難なくクリア。只今ウラキン、メスアカに挑戦中。

7月5日野村氏、最近はおっぱら海ばかり。4回も行って顔なんかもうボロボロ。

同日井村氏、乗鞍辺りで山本氏と出会う。オオイチモンジの蛹を見せびらかされたらしい。

同日松井氏、百万貫岩付近でクマと遭遇。黒光りするものが県道を疾走し、近寄る車には牙をむいたとか。

同日松田氏、1日中医王山でゼフを撮りまくる。最近はビデオに加え、カメラもぶらさげている。

同日吉村氏、飽きもせずメスグロヒョウモンを狙って高爪山へ。♂は見ただけ採らないで、1♀を採集。

7月10日野中氏、ロッキーヘパルの採集。忙しくてたった2週間しか休みが取れなかったとボヤいていた。

7月12日山本、勝海の2氏、北陸の雨地獄を逃れて鈴蘭峠へ。カラスシジミ、オオミスジ等多数を採集。

7月17日井村氏、前日より夜駆けして川上村へ。アカムネハナで気分を良くし、某所のフサヒゲルリも狙ったが、またまたボツった模様。

蝶類年鑑ついに発刊さる！1986年に出た蝶に関する文献はほとんど収録され、色んな角度から検索できる。報文の内容もわかる為、つつい読み耽ってしまう。蝶研出版 6000円。

例 会 の 報 告

6月5日(金)城南管工2Fにて8時より開催。カトカラ特集号に合わせ、嵯峨井氏は、ご自慢のカトカラを披露し、石川県のカトカラについて講演。今回予定されたギフチョウ大きさ比べ(僕のは大きいPart 3)は持ちよりが少なく不発に終わった。

また、翔は63号より印刷となり、100部作成となった。これに伴い執筆者には1部、特集号執筆者には4部贈呈することになった。

各人の主な話題では、読売新聞に田中氏が写真入で載っていた(田辺)。能登印刷から加賀能登植物分布図譜が出た(竹谷)。黒川の奥でクモツキが採れるらしい(吉村)。ヤツボシシロは格調高い虫だ(井村)。エジプト展でスカラベの模様がたくさん見た(澤田)。マツノマダラはどうすれば採れる(松井)。仕事帰りは宝達山で虫採りをしている(細沼)。夜間作業の連続で、もうたいへん(中西)。

出席者は、嵯峨井、澤田、田辺、井村、竹谷、中西、細沼、松井、吉村の9名でした。尚、細沼氏は新入会員。

と	ぶ	NO.65	1987年8月7日発行
編	集	松	井 正 人
発	行	百	万 石 蝶 談 会
事	務	局	金 沢 市 大 場 町 東 871 の 15
			松 井 方
			〒920-01 ☎0762-58-2727
			郵便振替(金沢)5-562